

# 辺野古土砂北九州

発行…2021年7月号・No.20



写真は、糸満市の「魂魄(こんぱく)の塔」。手前の碑には…「この地は今次大戦でも一番の激戦地であり、日本軍も住民も追いつめられて逃げ場を失い、陸、海、空からの攻撃を受けて、敵弾にあたって倒れた屍が最も多い激戦地の跡である。戦後、真和志村民が収容移住を許された所で村民及び地域住民の協力によって、道路、畑の中、周辺いたる所に散乱していた遺骨を集めて祀ったのがこの魂魄の塔である。

祭神三万五千余柱という、沖縄で一番多く祀った無名戦士の塔であったが、その後、昭和五十四年二月摩文仁の丘に国立沖縄戦没者墓苑が完成し、遺骨は同墓苑に分骨して安置してあります。建立年月日昭和二十一年二月。財団法人 沖縄県遺族連合会」と記されています。この写真も碑の文章も総務省のHPから転載しましたが、このすぐ横の熊野鋤山が、今大変なことに…。

## 《目次》

- 【日本の基地】世界自然遺産登録目前の奄美大島で(城村典文)……………2 ページ
- ご遺骨は愛する家族のもとに(東光寺住職・海秀道)……………5 ページ
- 【エッセイ】シマを出たことがない「誇り」(浦島悦子)……………7 ページ
- 「総会」と「ブルーアクション(小倉駅前街頭宣伝)」の案内も掲載

写真…城村典文・海秀道・総務省HP・他



発行 「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会

# 世界自然遺産登録目前の奄美大島で日米共同訓練行われる 奄美に陸自駐屯地「ミサイル配備までは 聞いてなかった」と議員もビックリ

自然と文化を守る奄美会議・事務局長 城村典文

## ■2度目の日米共同訓練が

防衛省は6月10日に、2019年9月に続いて、奄美で二度目の日米共同訓練を、7月1日から5日まで実施すると発表しました。

今回は、陸上自衛隊奄美駐屯地が開設して間もない5か月後に行っています。奄美駐屯地の地対空ミサイル部隊と、米国本土の州兵による「ミサイル防護訓練」です。今回は、米軍(30人)が沖縄県・嘉手納基地から地対空誘導弾パトリオット(PAC3)を持ち込み、日本側(40人)は中部方面隊の高射中隊が来島して、中距離対空誘導弾(中SAM)とパトリオットを使って非実射の共同訓練を行っています。

2010年に米軍・徳之島移設反対闘争をした群島民の気持ちは複雑です。

## ■陸自幕僚長「奄美は訓練しやすい」と

7月1日の報道公開で、陸自側・幕僚長は「奄美は共同対空訓練がしやすい環境」と語り、米軍司令官は「(防衛上)戦略的に非常に重要な地域だ」と強調したと

のこと。奄美が軍事関係からも、「お墨付きの場所」になったことに、奄美・群島民は当惑しています。

## ■誘致決断後の説明会で「ミサイル配備の話…議員もキツネにつままれた様子

自衛隊配備の話が持ち上がったのは2014年。行政側は「奄美豪雨(2010年10月発生)」での自衛隊員による災害救援に対する感謝と、地域経済の浮揚、人口減対策に「自衛隊誘致」は、「渡りに船」のような詭弁で島民を翻弄しました。

2015年に奄美市、瀬戸内町の首長が「自衛隊誘致」を決断しました。2016年6月に、後にも先にもない防衛省と奄美市が共催する唯一の「住民説明会」が、大熊地区(奄美駐屯地所在地)でありました。

その時、初めてミサイル部隊配備の話が出てきました。会場に出席していた奄美市議数名(市議会自衛隊誘致決議・議員団)も「ミサイル配備までは聞いてなかった」と、狐につままれた様子でした。



地元紙・南海日々新聞7月2日号から



名瀬港・観光船パースに接岸する米海軍の高速輸送艦「グラム」

## ■住民は、ミサイル部隊配備 8 割方反対

災害が起きた時に、即スコップ持参で駆けつけてくれると信じる島民は「自衛隊配備には、「異は唱えない」ものの、ミサイル部隊配備については、約 8 割の島民は(シール投票を 2017 年 6 月・11 月、市街地内で実施)反対でした。

今回の、ミサイルを使った日米軍事訓練は日本で初めてで、それも南西諸島の奄美で行われたとのこと。

近い将来アメリカが南西諸島に配備予定の中距離ミサイルに繋がるのではと、島民も感じ始めています。

## ■台湾有事を想定した共同訓練

安倍政権は、アメリカと共に「戦争のできる国づくり」を進めてきました。あとを継いだ菅政権も、沖縄県で新型コロナウイルスが蔓延しているにもかかわらず、辺野古米軍新基地建設を強行し、中国脅威を煽りながら南西諸島の島々で自衛隊の軍備増強を図っています。南西諸島民を欺きながら、『アメリカ・米軍の為の要塞づくり』を着々と進めています。

日米共同訓練「オリエント・シールド」を英紙フィナンシャル・タイムズは、6 月 30 日「中国が台湾への軍事的圧力を強める中、自衛隊と米軍が台湾有事を想定し

た共同訓練を実施している。」と報じています。麻生副総理は 7 月 5 日に、「台湾有事の場合、日米で限定的集団的自衛権行使の可能性を示唆した。」との報道もあり、今回の訓練は波紋を広げそうです。

## ■島民の思いは一つ…以前の「平和な美しい島」を返して

奄美大島は、戦後 8 年間米軍統治下にあり、1953 年日本に復帰しています。

世界自然遺産候補地の奄美の山々は深々とした緑に覆われていました。しかし 2016 年の陸上自衛隊駐屯地造成工事開始から、山の頂周辺は赤土が露出し見るも無残です。また街中は、ダーク・グリーン迷彩色が巾を利かせています。

戦後、曲がりなりにも奄美の自然と平和を守ってきた、市民団体『奄美の自然と平和を守る郡民会議』は、日米軍事訓練の始まる一週間前の 6 月 25 日(金)に、奄美市・名瀬市街地の永田橋交差点で、「日米軍事訓練反対」の集会を開きました。また、1 日の訓練初日(実際の訓練は前日から始まっていた? 4 日にはパトリオットは島を引き上げている)には、奄美駐屯地ゲート前に向いて『日米合同訓練中止を求める要請書』を、防衛大臣と駐屯地司令あてに手渡しました。



米海軍の高速輸送艦「グアム」から荷下ろしされるパトリオット



要請事項は、日米の軍事訓練反対はもちろん、自衛隊駐屯地の撤去をもとめて、陸自駐屯地のなかったころの美しい平和な島を戻してくれるよう島民になり替わってお願いしました。

日本は、武力を盾にすることなく、九条を盾に、人類に貢献しなければならないと、島民の思いは一つです。

### ■世界自然遺産と基地を共存させるな

さて、世界自然遺産目前の奄美大島の特別地区に隣接する場所では、陸自瀬戸内分屯地・貯蔵庫地区の大型弾薬庫建設が進んでいます。2024年完成予定の5本のトンネル式格納庫(1本1,000㎡)です。現在3本目に、着工しています。

最近その付近を水源とする河川に白濁の現象が見られています。



弾薬庫側からの汚水と清流が合流し、嘉徳川河口へ

その下流域は、奄美の世界自然遺産登録を勧告したIUCN(世界自然機構)が、環境省へバリアゾーン(緩衝地区)に入れるよう求めた嘉徳川流域(日本に三箇所残る、人工物のない砂丘)にあたります。

この貯蔵庫地区は、防衛省から土地改変が30ha以下の申請で、「環境アセス」は実施せず、「環境調査」だけで済ませた場所です。調査後の「情報開示請求」でわかったことは、基地予定地外へ放擲させられたアマミノクロウサギが15羽いたということです。

現在、白濁する川の側の道路脇沿いには、数十メートルにわたってアマミノクロウサギの糞を確認することができます。

また、貯蔵庫地区の反対側の駐屯地・管理棟地区のグランド方面からは、射撃訓練の空砲の音がルリカケス(天然記念物)等の囀りに混じって、こだまして聞こえてきます。

奄美の森の貴重な動物たちは、怯えながらも世界自然遺産登録の日をじっと待っているのでしょうか。

世界自然遺産と軍事基地は共存させるべきではないと思う日々です。

(じょうむらのりふみ)

## 《辺野古土砂北九州第7回定期総会》

8月21日(土)14時~16時30分

男女共同参画センター「ムーブ」大セミナールーム

\*

### ■会報8月号(会報No.21)について

- ・議案を掲載しています。
- ・8月4日に郵便局から発送予定です。
- ・議決用の葉書を同封しますので、総会に参加できない方はご利用ください。
- ・緊急事態宣言が発動された場合は、会場が閉鎖されますので、全員、議決用の葉書をご利用ください。
- ・「会費納入状況のお知らせ」を同封します。



# 遺骨は誰のもの ご遺骨は愛する遺族のもとへ

真宗大谷派東光寺住職 海 秀道  
(「辺野古埋め立て土砂搬出反対」熊本県連絡協議会)

## ■ご遺骨は死者の尊厳そのもの

沖縄辺野古新基地建設に、沖縄戦戦没者のご遺骨の混じった土砂を使用する動きがあります。

20万人余りが犠牲になった沖縄戦から76年。「遺骨を捜し続けることが慰霊なんです」と遺骨収集する方も。

「戦後の米軍占領下、住民たちの暮らしは遺骨を拾い集めることから始まった…米軍基地内には、遺骨収集が手つかずのところもある」(朝日新聞6月21日朝刊)。来年5月、本土復帰50年を迎える沖縄は、いまだに基地の島を強いられています。

日本人にとってご遺骨は死者の尊厳そのものです。ご遺骨をないがしろにすれば、死者の尊厳を踏みじることになるでしょう。命を尊ぶ仏教者として、これを許すことはできません。物言わぬご遺骨から、「非戦平和を願われる」その魂の叫びを聞かねばなりません。

## ■いま政府がすべきことは、ご遺骨を遺族のもとにお返りする事

日本政府は戦後、元軍人・軍属や遺族に総額60兆円もの補償をしました。しかし、民間人の空襲被害者には補償をしていません。沖縄戦で犠牲になられた遺族へ補償をしているのでしょうか。昭和20年6月6日、太田實沖縄根拠地司令官は極限状況下、多田武雄海軍次官宛に「沖縄県民斯克戦ヘリ。/沖縄県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」と、沖縄県民の敢闘の様子を訴える決別電報を打電。涙なくして読めません。



東光寺住職 海秀道さん

2016年に天草で行われた土砂全協の総会で、海さんと一緒に議長を務めました。そんな御縁もあって、今回原稿をお願いしました。八記

沖縄は日本本土防衛の「補給支援のない捨て石」とされ、戦後は米軍のアジア展開の前進基地とされました。沖縄戦でお亡くなりになられた方々のご遺骨が収集されないまま、土砂と一緒に、辺野古新基地建設の埋め立てに使われようとしているのです。戦没者を二度殺すことと同じです。冒瀆です。

今、日本政府がすべきことは、ただちにご遺骨を収集し、愛する遺族のもとへお返することです。沖縄島からの土砂の採取計画を撤回・中止し、沖縄戦犠牲者のご遺族の方々にお詫び謝罪することです。

## ■人間関係が希薄に

ところで新型コロナ禍の影響もあるかと思いますが、田舎でも葬儀通夜が簡略化され、それにもない人間関係が希薄になりつつあります。コロナへの感染の恐れもありますが、家族、親類関係が崩れることを危惧します。

従来、冠婚葬祭は私的部分だけでなく、地域社会との公的な部分もあります。お葬式は大切な儀式です。見送る家族は、愛する人の死を通して自ら生きることを考えます。すべての人が尊厳をもって人生を生き抜き、法名と念仏のもとで成仏させていただくのは尊いことではないでしょうか。

### ■小学生高学年には葬儀の役割が

昭和30年代の天草・本渡の葬儀では、葬儀を出す地域の高学年の小学生は、全員お寺までの道中、道の真ん中を歩く葬列の仏花もちの役を務めていました。小学生でも、お亡くなりになった方のお名前は当然知っていました。40年代に天草五橋開通で自動車社会になり葬列はなくなりました。年配の方は今でもその頃のことを懐かしく話します。

### ■愛する遺族のもとで供養を

「遺骨は誰のもの」についてエピソードを交えて言及すれば、田舎寺住職の失敗談になります。「村八分」という言葉がありますが、葬儀と火事の二つはどんな

ことがあっても手伝い、勤めをしなければならぬという意味があるようです。

この頃は核家族が多くなり、兄弟姉妹も少なくなりました。仏壇のない家庭もあります。親のご逝去をご縁にお内仏をお迎えし家族一同、「正信偈」のお勤めをするようになった家庭もある一方、悲しいことに兄弟姉妹関係、親類関係が複雑になるところもあります。たった2人兄妹なのに、嫁に行った実妹の葬儀にも参列せず、周りからの忠告も全く聞こうとしない方もいました。生前の兄妹関係が露呈したのです。近隣とも親戚とも、関係を断って生活しています。孤独です。事態は深刻です。住職の教化能力のなさを痛感させられています。

都会から家族そろってお骨を抱いて納骨に帰ってくる方もいらっしゃいます。最近では海や山へ散骨する方がいると聞きますが、あれは今はやりの断捨離だと思います。邪魔者扱いです。ご遺骨との、死者との決別です。冒瀆です。どのような生き様、死に様であっても、尊厳をもって愛する遺族のもとで供養されるべきだと思います。(かいしゅうどう)

## デニー知事を支える「ブルーアクション」にご参加ください

7月31日(土)16時～17時・小倉駅前

\*

沖縄防衛局は、大浦湾の軟弱地盤に対応するため、昨年、沖縄県に対し「工事の変更申請」を行いました。デニー知事からの回答は、今年の7月末までには出ると思われます。その場合、知事は「不承認」の回答を出すはずで、私たちは、なぜ知事が不承認の回答をしたのか、その理由を多くの方に知らせる運動を行います。

その手始めが全国的に行われる「ブルーアクション」です。青いものを身に着けて、ぜひ小倉駅前にお集まりください。



玉城デニー知事

## 浦島悦子の連続エッセイ 《南の島から》 No.20

### シマを出たことがない「誇り」——『三原字誌』にぼれ話(2)

ハリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター



前回紹介した當銘由金さんは、出身地の三原だけでなく沖縄の教育界では有名な人だった。

沖縄戦の時、米軍は沖縄島北部を收容所地域と位置付け、中南部の激戦地でかろうじて生き延びた民間人を運び込んだ。三原を含む東海岸一帯は各集落がすべて收容所となり、それ以前に中南部から逃れてきていた避難民を含め人口が10倍以上に膨れ上がった。戦後間もない一時期、人口増により各区(集落)がそれぞれ「市」となったことがあるが、その際に當銘さんは「三原市」の市長を務めた(米軍の任命と思われる)。また、戦後、それまで学校のなかった三原(戦前、子どもたちは遠く離れた学校に歩いて通っていた)に学校を作ることができたのも、彼の尽力が大きかったと言われている。

當銘さんの親は、貧しい暮らしの中でも成績優秀な息子を進学させ、彼は戦前から戦後までの27年間、教員、校長などを務めたあと、「琉球文教図書」という教科書会社を立ち上げ、社長また会長として38年勤め上げ、沖縄の戦後教育の復興に貢献したと評価されている。三原やフクジの出身青年たちは、當銘由金さんの出身地と同じだと名乗ることによって、山深い「田舎者」というコンプレックスから逃れることができたという。當銘さんは、いわば三原の「出世頭」なのだ。

當銘さんのように、シマを出て「立身出世」を求める風潮が強い中で、それとは真逆の人もある。三原シネーガチマタ(川沿いの谷間をマタと呼び、當銘さんの生家のあったフクジはフクジマタとも言う)の奥に住んでいた勢理客宗英さん

(勢理客は沖縄読みでは「ジッチャク」だが、最近は日本語にならって「セリキヤク」と読むことが多い)は1907年(明治40年)生まれ。1904年生まれの當銘さんより3歳若い。「シマ一番の物知り」と言われていたソウエイおじいの話が私が初めて聞きに行ったのは2000年頃、おじいさんが93歳頃だったと思うが、何よりも感動したのは、「この年になるまで(旅行以外は)一度もシマを出たことがない」と誇らしげに言ったことだった。

「自分は体が小さかったから(徴兵検査で不合格になり)、戦争には行かなかった。戦争をするのは、頭が悪くて、欲が深いからだよ」というおじいさんの言葉に「う～ん、実に鋭いなあ…」と感心している私に畳みかけるように、「儲け(県内・県外出稼ぎや海外移民などのこと)にも行かなかった。内地に行ったのは旅行だけ」と胸を張る。学校は小学校まで、若い頃は家庭の事情も厳しく、シマを出るに出られなかったとも言えるのだろうが、晴れ晴れとした表情には一点の曇りもない。山深いこのマタに根を張り、誇り高く1世紀近くを生きてきた人の笑顔がまぶしかった。

ソウエイおじいさんは当時、天気の良い日は毎日畑に出るといってほどお元気だったが、私が新基地反対運動などにかまけてご無沙汰している間に亡くなってしまった。現在、『三原字誌』作成に向けて、おじいさんの息子さんである宗吉さんに、いろいろお智恵を借りているが、「おじいなら知っていたはずなのになあ」と言われることも多く、もっと聞いておけばよかった…と悔やんでいる。(うらしまえつこ)



## 《辺野古土砂北九州・今後の予定》

- 7月31日(土)…《小倉駅街頭宣伝・ブルーアクション》16時～17時  
この時点で知事の「不承認」が出ていない場合は、通常の街頭宣伝とします。6ページ参照。
- 8月04日(水)…《会報発送日(議案掲載)》13時～ 生涯学習センター
- 8月11日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習センター
- 8月21日(土)…《辺野古土砂北九州第7回総会》14時～16時30分 ムーブ5階  
緊急事態宣言が発令された場合は、書面総会とします。
- 8月28日(土)…《小倉駅街頭宣伝》16時～17時 小倉駅前  
緊急事態宣言が発令された場合は、街頭宣伝は中止とします。

## 編・集・後・記

冬の北海道と夏の沖縄に行きたいと、昔から思っていたが、ひよんなことから、梅雨明けの沖縄に1週間程滞在することになった。

外に出ると朝から暑い。昼も暑い。手袋を突き抜けて腕がじりじり焼けるのがわかる。ただ、夕方5時を過ぎたころから風か出てきて、6時ともなると、暑さは感じなくなり、風の心地よさだけが残る。風に吹かれながら、「生きて明日を迎えられる」と大げさに思ったりする。それほど夏の沖縄は、私には過酷だった。

以前初めてケート前に座り込み、県警の機動隊を目の前にした時、「沖縄のみなさんは毎日こんなたたかいをしているのか」と、尊敬と感動と国への怒りで体が震えた。今回現地には行っていないが、安和栈橋や塩川港で監視・抗議行動を続ける仲間の過酷さを、身をもって知ることができた。

新基地建設は、「南部の土砂を使うな」の声が広がりを見せている。終わりの時を知るすべもないが、日に日に「新基地はつくれない」の確信だけは大きくなっていく。(y)

## 《辺野古土砂北九州の口座》

【辺野古土砂北九州の口座は】 ゆうちょ銀行 記号番号 01700-7-166911

【他金融機関から振り込む場合は】 ゆうちょ銀行 当座 一七九店 0166911

加入者名…「辺野古埋立土砂搬出反対北九州連絡協議会」

【お問い合わせ】 大野保徳 090-4482-0043 までお気軽に。

※振込用紙には、会費・カンパなど、内訳をお書きください。

※振込による入金につきましては、特にお申し出のない限り、領収書の発行は省略させていただいています。



「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会

〒803-0816 北九州市小倉北区金田 1-3-32-308 八記方

八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂 090-6299-2608

kanpanerura888k@gmail.com